

これは昨年の全国大会で提案した診断法であるが、前回とは別の新しい調査データに適用してみた。その結果、前回のものと同様、たわみ曲線の形から舗装のひびわれを診断する
 ことが多少程度可能なことが確認された。例えば図-5に示すように、フラックなしの路
 面での試験値は図中の破線の内側に集中し、破線の外側にプロットされる場合にはフラッ
 クありの可能性が非常に大きくなる。なお前回の報告では診断法としての実用性を考へ、こ
 の破線を $\delta_e + \log RA$ が一定となる直線としたが、それは無理なようである。

4. むすび、
 まだ基礎的な研
 究段階であるが、上述したよう
 な診断法を実際に利用できるよう
 な可能性はありと見う。今後さらに、
 データの集積と測定法の改良、開
 発に努めたい。

参考文献) 1) 昭和50年土木学会講演要旨、昭和50年10月、
 第4部 pp. 112-119.

